

年 月 日

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後2か月以内】

団体名 湖西市災害ボランティア

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

小冊子「減災のために」を発行と活用

活動地域: 三遠地域

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

南海トラフ地震のレベル1であろうが、2であろうが、被害は出ます。被災しても被害を小さくする備え、被災後の生活を少しでも豊かにできる備えを多くの方々に知ってもらい、実施してもらいたいものです。備えがあるなしで、被害状況や被災後の生活の質は大きく違いが出ます。各個人・各家庭での備えこそ、地域防災の原点と考えました。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

自治会や各団体にメンバーが出向き、この小冊子を使って個人や各家庭の減災対策を啓発する活動(講座の協働開催) 5回/年以上を計画しましたが、4回止まりとなりました。予定されていた行事が1回、4月過ぎにずれ込みましたが、実施を計画しております。各市町の図書館や公民館、集会所などに資料として公開して頂くことや、啓発活動にも利用して頂くように50か所以上への配布を計画していましたが、拡大して85か所に行いました。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

小冊子作成後、ただちに配布活動を開始しました。小冊子に趣意書を付けて市内は持参し、市外はメール宅急便で発送し、経費の節約を図りました。小冊子を使って個人や各家庭の減災対策を啓発する活動(講座の協働開催)は、小冊子の配布先や地元自治会、町内会、「いきいきサロン」(高齢者の健康維持を奨励する集まり)で実施しました。新年度には聴覚障害者団体で小冊子を用いて「減災対策講座」を開催する予定をしております。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

およそ計画通りの活動ができたと思っているが、いまひとつ反響が鈍いと感じました。。東日本大震災後、南海トラフ地震として第4次被害想定が発表されてからは、ツナミ対策がクローズアップされすぎ、もっとも大切な地震の初動対策(家の耐震性や家具対策)が軽視されているのは残念な現象です。まず大切な地震対策は、家や家具による身体への被害を防いでこそ、津波など2次的にくる被害を防げるのですが。これに懲りずに、引き続き皆さんが被害を少なくできるように、減災対策の啓発活動を進めて行く所存です。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

●参考資料あり ・ 特になし

冊子「減災のために」作製

湖西災害
ボランティア

湖西市災害ボランティア（小池力代表）は、個人や家庭でできる災害対策をまとめた冊子「減災のために」を作製した。東日本大震災や阪神大震災での教訓を元に、家屋の耐震補強や高齢者の減災対策などを盛り込んだ。執筆者の前田展雄さん（74）＝同市駅南＝は「平常時の備えについて考えるきっかけにしてほしい」と呼び掛ける。

前田さんが「これが無ければ次の行動はできない」と語る減災の柱は、震度6強～7の揺れに耐える家屋の強度と家具固定。トイレ

自宅の耐震、家具固定…



防災対策などをまとめた冊子「減災のために」＝湖西市

やプライベートなどさまざまな問題が起きる避難所に頼らないためにも、「自宅で自立した避難生活

ができる備えを」と訴えている。津波避難については、「県の想定を信じすぎず、最善を尽くせ」と強調した。

兵庫県西宮市出身の前田さんは、阪神大震災で義姉をしくしている。12年前に同ボランティアを立ち上げ、防災講演会などの活動を続けてきた。今回の冊子について「これまでの活動の結果」と話し、小池代表も「12年間の経験が詰まっている。有効に活用してほしい」と述べた。

2千部作製し、市民団体や企業などに配布する。図書館でも閲覧できる。

耐震化や家具固定、米の備蓄⁰⁰⁰

避難生活は自宅で

お年寄りを対象にした防災講座が二十二日、湖西市新所原三の新所原ふれあい会館であった。震災が発生しても自宅で避難生活ができるよう耐震化や家具固定、米の備蓄などを学んだ。

(加藤祥子)

新所原で講座

岡崎地区福祉会新所原暮らしよりも自宅避難原支部のいきいきサロのお年寄りの方が歩行ンとして開き、五十四 困難になりにくい、とい人が参加した。市災害うテータを挙げ、自宅ボランティアの小池力で生活できるような備會長や前田展雄さんらえの例を紹介した。メンバー五人を講師に 家具は固定するだけ 迎えた。

阪神大震災で親族を ではなく、高さを低く亡くした前田さんは備 当たらぬ置き方を考えの大切さを訴えた。えたりするよう促し阪神大震災や東日本大 市内では市が無料震災の死者のうち、高 家具を固定してくれ 齢者の割合が高かった ることも語った。枕元 ことを説明した。 に懐中電灯を置いてお 親族宅や仮設住宅で くことや水、米、ガス

備えの大切さ訴え お年寄り、防災学ぶ



こんろなどの備蓄が必 要だと呼びかけた。 断水してトイレが利 した。

用できない場合には、 猫用のトイレの砂が使 えることを話し、メン バーらが使い方の実例 を示した。ポリエチレ ンを炊き、参加者で試食

猫のトイレ用の砂の有効性を説明する小池會長。湖西市新所原三の新所原ふれあい会館で

2014年5月22日開催 中日新聞 記事

小冊子が出来る前に行った活動ではありますが、実施した内容は小冊子に記載されている内容から時間の許す範囲で抜粋してお話と体験コーナーを実施しました。

「わしは、もう歳だから死んでもええ」は迷惑だ！ という話や、安くて速くて確実な「耐震シェルター」の紹介や「自宅で避難生活」「避難生活に役立つ知識」など。

体験コーナーでは、「誰も失敗しない袋で炊飯」や「猫砂のトイレ」など昼食を交えて紹介しました。